

# 高校で必修化 「総合的な探究の時間」とは？

文：教育ライター／笹原風花

※リポート「高校生の保護者のためのキャリアガイダンス2023」参照

今、高校の教育が大きく変わってきています。新しい学びを象徴するのが、「探究」と呼ばれる学び方です。2022年度から始まった新課程では、「総合的な探究の時間」が必修科目となっています。いわゆる教科学習とは異なる「探究」とは、どのような学びなのでしょう。

## 正解のない「問い」に向き合い、 自分なりの「解」を見いだす

探究とは、自ら課題を設定し、課題について情報を集め、整理・分析し、他者と協働しながら課題解決に向けた意見や考えをまとめ、表現するという、プロジェクト型かつ教科横断型の学びのこと。このサイクルを繰り返し、具体的なアクションへとつなげていきます。変化が激しく、さまざまな情報や価値観が渦巻く今の時代は、何が正しいのかを自分で判断して行動すること、新しい視点で物事を見て変革を起こすことが求められます。自ら課題を見いだしアクションを起こすという探究は、いわば生きていくうえで必要なライフスキルを身につけるための科目と言えるのです。

探究に取り組むうえでポイントとなるのが、「問い」をもつことです。日常生活や社会に目を向けたときに湧き上がる疑問や興味・関心、違和感が「問い」の原点。ときには人間の内面に「問い」を見つけておくことも必要です。この「問い」を掘り下げ、自分なりの「解」を見いだしていくのが探究です。

探究は、自分の興味・関心事を掘り下げると同時に、自分自身を掘り下げる学びでもあります。自分は何が好きか、何が得意か、どうありたいかを探ることに本質があります。つまり、高校卒業後に何をしようか生きていくのかという問いと、密接に結びついたものなのです。実際、探究をきっかけに、将来やりたいことや学びたいことの方向性が見えてくる生徒は少なくありません。これから社会に出て人生の選択をしていくうえで、探究によって自分の在り方を知ることはとても重要なのです。

## 「総合的な探究の時間」の流れ

※文部科学省「今、求められる力を高める総合的な探究の時間の展開」参照



## 設定する課題の実践事例

※文部科学省「今、求められる力を高める総合的な探究の時間の展開」参照

- ☑ 農業の高齢化とICTの活用について
- ☑ 高齢者にとって役立つデジタル活用講座を企画しよう
- ☑ 地域PRイベントの提案
- ☑ 地域の地形を踏まえた防災・減災について
- ☑ 誰もが取り組める効果的な環境保全は何か
- ☑ 海外の海洋プラスチックゴミ削減に向けた取り組み

# オープン OPEN CAMPUS キャンパス 2024



「人間学」の学び紹介を開催します！  
保護者の受講も歓迎！（開催日はアイコンが自印）

## スケジュール

- 📅 3月24日 SUN
- 📅 5月19日 SUN
- 📅 6月16日 SUN
- 📅 7月15日 MON
- 📅 8月3日 SAT
- 📅 8月4日 SUN
- 📅 8月25日 SUN
- 📅 9月22日 SUN
- 📅 12月8日 SUN

祝日オープンキャンパス  
普段の授業風景などリアルな学生生活を見ることが出来ます！

開催時間 10:00~15:30  
※詳細は大学Webサイトをご覧ください。 ※状況によっては、日程および内容が変更になる可能性があります。

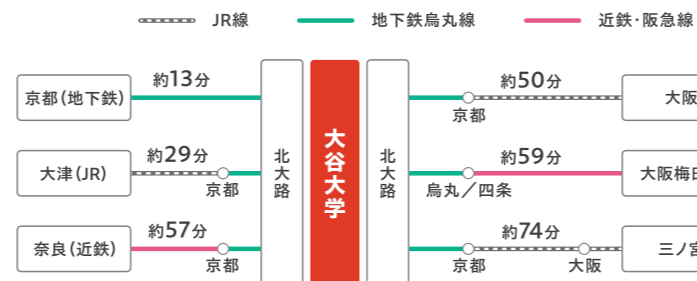
PICK UP ! 「大谷大学ってどんなところ？」を知る 充実のプログラム

- 大学紹介
- 個別相談
- 入試対策(小論文・教科)
- キャンパスツアー
- 全学部・学科の学び紹介
- 学生座談会 など

オープンキャンパスの詳細をチェック！

## アクセス

### 駅すぐの立地で、通学に便利！



Be Real 大谷大学 入学センター 〒603-8143 京都市北区小山上総町 [TEL] 075-411-8114(直通) [E-mail] nyushi-c@sec.otani.ac.jp

- 文学部**
  - 真宗学科
    - 思想探究コース
    - 現代臨床コース
    - 国際コース
  - 仏教学科
    - 現代仏教コース
    - 仏教思想コース
- 哲学科**
  - 哲学・西洋思想コース
  - 心理学・人間関係学コース
  - 倫理学・公共哲学コース
  - 宗教学・死生学コース
- 歴史学科**
  - 日本史コース
  - 世界史コース
  - 歴史ミュージアムコース
  - 京都探究コース
- 文学科**
  - 日本文学コース
  - 現代文芸コース
- 現代社会学科**
  - 現代社会学コース
  - コミュニティデザイン学科
  - 地域政策学コース
  - 情報メディアコース
  - 社会福祉学コース
- 社会学部**
- 教育学部**
  - 教育学科
    - 初等教育コース
    - 幼児教育コース
  - 国際文化学科
    - 英語コミュニケーションコース
    - 欧米文化コース
    - アジア文化コース
- 大学院**
  - 人文学研究科
    - 真宗学専攻
    - 仏教学専攻
    - 哲学専攻
    - 仏教文化専攻
    - 国際文化専攻
    - 教育・心理学専攻

# いま高校生は 何を学び、 どんな社会で生きて いくのだろうか？

対象  
高校生  
保護者  
高校教員



## SECTION 01

### 「2030年の社会」はどうなるの？

## SECTION 02

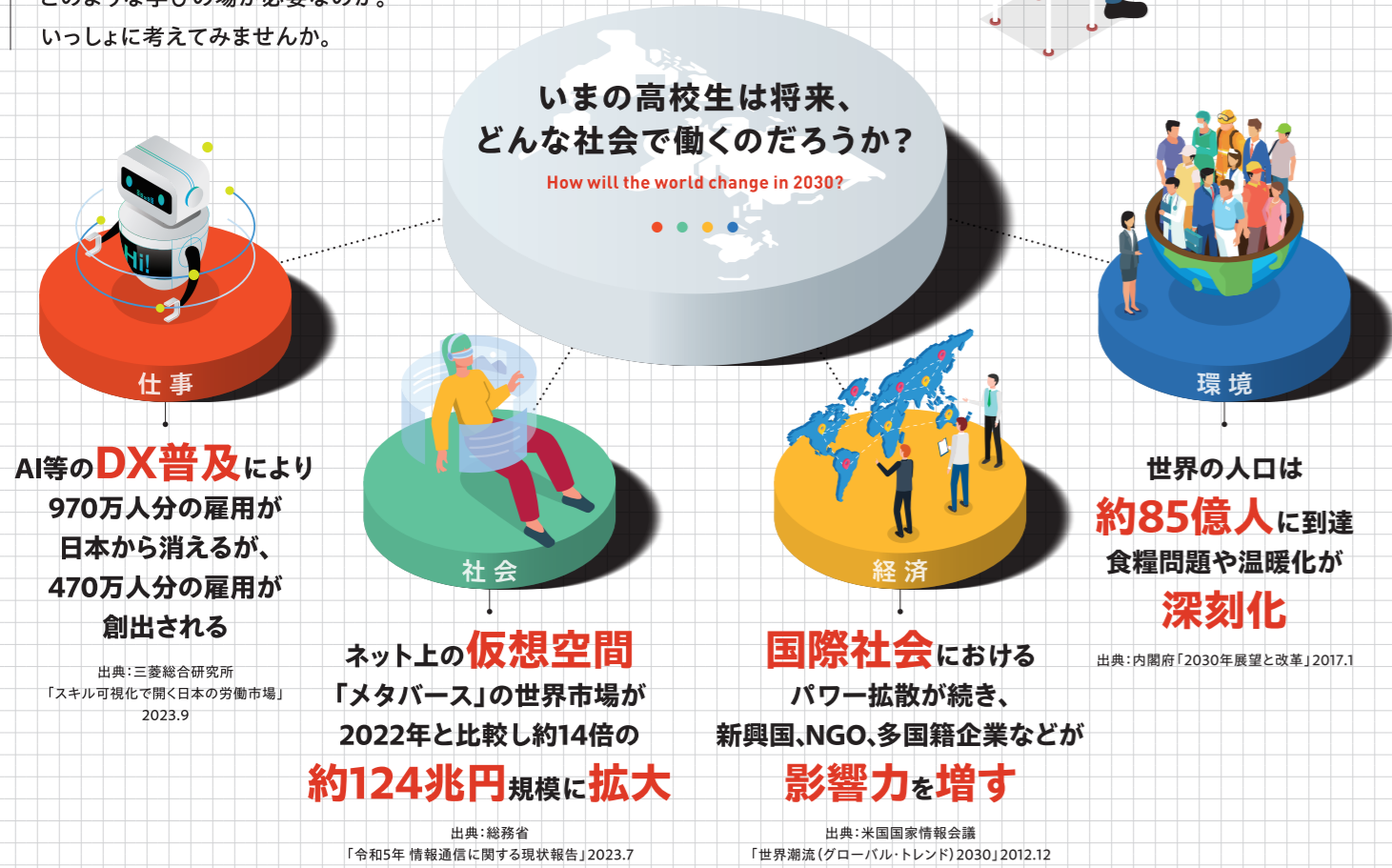
### 高校で必修化「総合的な探究の時間」とは？

## SECTION 03

### これからの社会に必要な学びの視点「人間学」

## 予測困難な時代を迎え、 変わる日本の教育・学力観

今は、予測困難なVUCAの時代と言われます。実際に、AIの普及、新興国の台頭など世の中は大きく変化しつつあり、想像を超えた未来が私たちを待ち受けています。一方、どのような時代であっても、自分自身が自立して幸せな人生を歩んでいくことが、多くの人々にとって究極の望みではないでしょうか。これからの社会において、時代の変化に翻弄されず、しなやかにばたくためには、どのような学びの場が必要なのか。いっしょに考えてみませんか。



# 「2030年の社会」は どうなるの？

文:教育ライター/笹原風花

VUCAとは、Volatility(変動性)、Uncertainty(不確実性)、Complexity(複雑性)、Ambiguity(曖昧性)という4つの単語の頭文字をとった言葉で、目まぐるしく変動する予測困難な状況を意味します。変化の激しい時代を生きるためにはどのような資質・能力が必要なのか議論され、日本の教育や学力観は大きく変わりつつあります。知識偏重、インプット重視と言われてきた旧来の学校教育は、習得した知識・技術をいかに活用するかという方向にシフトし、**思考力・判断力・表現力や**

**学ぶ姿勢・意欲を育むことにより重点が置かれる**ようになっています。さらに近年は、Well-beingという視点も重視されるようになっていきます。Well-beingとは、肉体的、精神的、社会的に満たされた状態を意味し、個人や社会のWell-beingを目指すことは、教育の目標の一つとなっています。激動の社会を生きつつ、**一人の人間として人生を豊かで幸せなものにする**。そんな視点で、高校・大学での学びについて紐解いていきましょう。

求められるのは、自分で考え、  
判断し、行動を起こす主体性。

これからの時代を生きぬく大学生に必要な、柔軟な視点をはぐくむ根本的な「探究」。

# それが大谷大学の「人間学」。

## INTERVIEW

### ▶ 学生一人ひとりが解釈した「わたしの人間学」

**口原 光大さん**  
教育学部 教育学科  
初等教育コース  
第3学年  
兵庫県・  
夢野高等学校出身



常に世の中の「変化」を意識しながら、  
生きる目的を見いだしたいと考えるように

今の何気ない日々は、いつ大きく変わってもおかしくない。明日に戦争が始まるかもしれないし、天災が起こってしまう可能性もある。だからこそ、今生きている証を残したい。人間学の授業を通し、これまで想像もしたことのない人の立場になって物事を考えたことで、常に「変化」を意識して生活するようになりました。また、自分が生きる目的を早めに見だし、誇れる生き方したいと考えるようになりました。「何のために生きるのか」、その答えは探している途中ですが、考えるきっかけを大学での学びが与えてくれたこと、普段の生活における姿勢まで変えてくれたことは間違いありません。

**今西 彩夏さん**  
国際学部 国際文化学科  
英語コミュニケーションコース  
第4学年  
京都府・  
京都外大西高等学校出身



きちんと生きようと思い、  
「あたりまえ」の日々にも感謝

国際学部で英語や異文化について学んでいると、自分にとっての「あたりまえ」が相手にとっては違うと感ずることがありますが、多様な価値観にふれる人間学の授業で同じような印象を受けました。一番強く感じたのは、「ちゃんと生きていきたい」ということでした。たとえば人間学で差別について学んだ時、過去にハンディキャップのある人と接した自分の中には偏見があったと気づき、今は当事者の方々の思いや生きづらさにまで考えが及ぶようになりました。そして、これまで自分は何気なく生きてきたけれど、毎日の生活における姿勢まで変えてくれたことは間違いありません。

**小佐野 結貴さん**  
文学部 歴史学科  
世界史コース  
第4学年  
大阪府・大阪高等学校出身



「あるがまま」を受け入れることで  
視野が広がり、考え方が自由になった

人間学の授業は、単に仏教という宗教について知る授業ではなく、自分自身について多くを気づかされるものでした。たとえば私は以前、「自分はこんな人間だ」と決めつけすぎていたように思います。それは他の人に対してと同じで、自分はこうだか、あなたはこうだからとレッテルを貼る必要はなく、個性や変化があるがままに受け入れればよい。そう理解できた時、物事の全体を俯瞰して捉えられるようになり、考え方が自由になりました。大学での学びを通してインプットされる情報は「ヒント」や「素材」でしかありません。それを自分なりに咀嚼し、着地点を見いだすことが大切だと思います。

**檜木 勇作さん**  
社会学部  
コミュニケーション学科  
地域政策学コース  
第4学年  
大阪府・吹田東高等学校出身



他者を気遣えるようになり、  
多くの人に向けて話すスキルも上達

以前の自分は、思ったことをストレートに言うタイプでした。でも、学科の様々な授業を通して客観的な視点をもてるようになり、多角的に物事を考え始めてからは、「こういう言い方をすると傷つくかもしれない」と相手のことを気遣えるようになったと思います。「もしかしら無意識のうちこれまで」と、自然に過去を振り返ったりもしました。自分の人間性について見直すことができたのはもちろん、ディスカッションの機会も多いので、他者を気遣う機会にもなりました。ゼミの活動で取り組んでいたラジオの生放送で活かせる、トークスキルを磨くことにもつながりました。

「人間学」の  
学びを  
動画でチェック!



人間とは何か。問い続けることで  
“自分”や“社会”の見え方が変わり、行動につながる。

人としてどう生きるのか。他者に寄りそうとはどういうことか。様々な問いについて、仏教の視点に基づいて考える「人間学」は、開学時から受け継がれる大谷大学ならではの学びです。「生と死」、「差別」などの多様なテーマについて探究することで新たな視点が増え、他者と協働しようとする行動につながります。

## 授業紹介



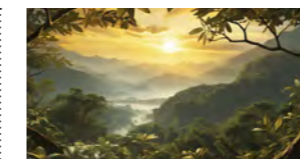
### 仏教・親鸞の生涯に学ぶ

仏教をひらいた親鸞(仏陀)、浄土真宗の祖である親鸞、それぞれの生涯について学びながら、人として生きること、他者と共にあることについて考え、現代社会への問題意識を養います。



### 環境問題と市民参加

地球環境問題の解決を目指し、行政や企業、住民組織などが行っている取り組みについて学習。野外イベントや紙団祭でのゴミ削減活動にも参加し、レポートにまとめることで理解を深めます。



### 宗教と自然

インド発祥の宗教がもたらした精神文化と、砂漠や森などの自然環境。そのつながりを学ぶことを通して、人間のあり方を根本的に見つめ、社会や文化のよりよい発展について考えます。



### 性的マイノリティを取り巻く現状についての考察

「LGBT」などの言葉や用語を理解したうえで、性的マイノリティに関する諸問題の事例について考察。映画鑑賞やゲストを招いてのトークセッションも行い、体験的に視野を広げます。

## PICK UP 「人間学 I・II」の学び



「問い」は世界をひらく。  
そのことを体感できるのが大谷大学の人間学。

大谷大学長 一楽 真 Ichiraku, Makoto

大谷大学は仏教を柱としていますが、「こうあるべき」という考え方を学生に植え付けたいわけではありません。先に「答え」をもってしまつと視野が狭くなります。大多数の人がひとつの意見であるとしても、「本当にそうなのか?」と自分自身で見つめ直すことが大切なのです。実際にキャンパスで人と集い、テーマをもとに問いを立て、活発に話し合う、そこで初めて「自分」というものが見えてくることでしょ。また、同じ時代を生きる人だけでなく、過去の偉人に会えることも本学ならではの学びです。2,500年前の釈尊から、思い悩み、争いをどう超えるか、平和を求めてきた歴史があります。過去に学び、今の自分に何ができるのかと考えると、次は未来が見えてきます。大谷大学は人間学を通して、「自分の生き方」が見つかる大学です。

MESSAGE